

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
心豊かに自ら学びともに伸びゆく子どもの育成 考える子 助け合う子 進んで取り組む子	基礎学力の定着をめざし、自ら考える子どもを育てる。 自他ともに人を大切に、助け合う子どもを育てる。 心身ともに健やかな子どもを育てる。



調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国 国語A算数Bについては県平均と比べると正答率が高く、算数Aはほぼ正答率は同じである。 国語Bについては県平均より正答率は低い。 国語、算数とも記述で回答する問題については、資料を読み取って関連づけて考えたり、考えをまとめたたりすることを苦手に行っている。 県 国語、社会、算数については県平均と比べると正答率が高い。 国語、社会については「基礎」・「基本」とも正答率はかなり高い。 算数については、「活用」では県平均に比べるとかなり高いが、「基礎」については県平均を下回った。基礎的な知識・技能を問う問題はよいが、2つの数量関係を問う問題については確実な理解が十分とは言えない。 理科においては「基礎」・「活用」とともに県平均と比べると低い。特に「活用」においてはかなり低い。	【学習状況調査の結果】 「あいさつをしている。」「学校の決まりを守っている。」「人が困っている時は進んで助ける。」等の設問から、社会規範の意識が高い児童が多く、県平均の肯定率よりもかなり高い。 「宿題をしている。」「授業の予習や復習をしている。」が8割を超え、家庭での学習習慣が身に付いている児童が多い。 「1日当たりのTV時間」は昨年より長くなり、「3時間以上」の児童も半数以上もいる。しかし「TVゲーム・携帯ゲーム時間」は昨年より減り、「1時間以下」の割合が増えた。 「読書が好きだ。」という項目に否定的な児童が多く、「1日当たりの読書時間」では「全くしない」が県平均に比べて高い。



成果と課題	課題に対応した改善方法
国語や社会においては県平均の正答率よりかなり高いが、反面「勉強が好きか。」の設問では「あてはまらない」と答えた割合が高く、「させられる勉強」になっているのではないかと。「学ぶ喜びや分かる楽しさ」に繋がる授業の工夫が必要である。 理科においては正答率が全般的に低い。観察や実験、資料作成には真面目に取り組めるが、学習したことが定着していない。学んだ自然現象の知識を日常生活に生かすことなどにも課題がある。 以前に比べてよくなっているが、今後もTV時間や携帯ゲーム時間の削減(ノーテレビ・ノーゲーム)の取り組みを行っていきたい。	「学級集団づくり」や「学び合いのある授業づくり」を進めることで友だちとともに「学ぶ喜びや分かる楽しさ」に繋げていきたい。 読書については「読み聞かせボランティア」「図書室の本を活用した授業の工夫」「PTA親子読書」「朝自習での工夫」等を通して本好きな児童を増やすようにする。 「家庭学習の充実」「ノーメディアデー・減メディアデー」の取り組みを保護者と協力して進める。

取組の検証方法及び検証時期	達成目標(数値目標)
校内研修や授業研究を通して集団や授業づくりを進める。 授業で学んだことを他学年に紹介したりして、学習に対する意欲や関心を高める。(適宜) 家庭学習やノーメディアデーについてはアンケートをとり情報を集め懇談等で家庭に知らせる。	全員が授業研究を1年間のうち1回する。 各学級が全校朝の会やミニ発表会などで1年間のうち1回以上成果を発表する。 家庭学習については「家庭学習のすすめ」(保護者配布)を目標にする。